



みずむすび もり
水結の杜



僕たちの暮らす日本。古の神々の時代から木と共に生きてきた。国土の70%を占める森の国、思い返せば、暮らしの中で用の美を進化させ様々な道具や家具、家に至るまで人々の営みに深く寄り添っている。便利と効率を目指した現代社会、光の速度をも手に入れても尚、より「欲」を加速させる姿に際限がない。

暮らしにおいて木材は利用はされるが無垢材を使う場面は減り、工事上の効率化と生産者と消費者とはっきり二極化したクレイム社会でのリスク回避のためにベニヤや集成材などの見た目だけの木質系建材が主流になってしまった。

呼吸し湿度によっては変化もする無垢材、一見欠点のように思われてしまうこれらは、人の暮らしの中で心に癒しを与え一つ一つ顔が違ふ個性は経年変化によって美酒の如く深い味わいと愛着をもたらせてくれる。僕たちはそんな時代に過去、不便なものの効率の悪いものと排除してきたものを改めて新時代の価値として建築活動の中で提案している。

計画は海のある港町のホテルの別館、神前挙式のための神殿建築。大空間と上部の広がりを実現するために梁で空間を分断するのではなくトラス構造をデザインし細かく455mm@90x240で交互に組み棟木でそれらを抑えることにより強固な構造を実現させました。神殿建築の凜とした空間を表現するため交互に架けられた梁が静寂の中に音楽を奏でるように未来へ響き渡る。

本来の在るべき木材の姿を僕たちは再び実現する。

